

はじめに

鳥取県衛生環境研究所は「危機管理対応」、「環境の保全・再生と活用に資する調査研究の実施」、「住民・NPOの環境学習・環境活動の支援」及び「試験検査の信頼性確保と精度の向上」をミッション（使命）に掲げ、県民の安全と豊かな環境の確保に向けて業務に取り組んでいます。

当研究所では、令和2年以降の新型コロナウイルス感染症対応を契機として改正された鳥取県感染症予防計画及び地域保健法の基本指針に基づいて「衛生環境研究所健康危機対処計画（感染症）」を令和6年7月に策定し、今後に起こりうる新たなパンデミックに備えた要員や資機材の確保を進めています。また、令和6年夏以降に県内で感染が急拡大している百日咳においては、全ゲノム解析を活用し、新型コロナウイルス感染症対応で得た経験を生かした調査を進めています。

原子力施設に係る防災対応では、島根原子力発電所が令和6年12月に約13年ぶりの再稼働を迎え、改めてモニタリング体制の再確認を行うとともに万が一に備え、緊張感をもって平常時モニタリングを継続しています。緊急時モニタリング計画及び実施要領の見直しも進めており、原子力防災先進県である福井県よりモニタリングに精通した技術職員を招聘し助言を受けるなど、実効性の高い対応マニュアルとなるよう、更なる改善を図っています。

更に試験検査の信頼性確保と品質管理については、食品衛生・医薬品・感染症の3分野の検査で法に基づく業務管理（GLP：Good Laboratory Practice）を運用するとともに、平成18年（2006年）から4項目の試験について国際規格ISO/IEC 17025に基づく試験所認定を受けて維持・運用しています。また、他の試験検査や測定についてもこれらの考え方や品質管理方法等を取り入れ、標準作業書を整備するなど信頼性の高い試験検査の実施に努めるとともに、県内の検査機関とも連携し、検査技術の向上や精度管理の知識普及に努めています。

一方、調査研究では、廃棄物処理や土壤汚染現場での調査などにおける迅速試験法の開発や、県内の代表的な湖沼・汽水湖である湖山池・東郷池の海水遡上による流動や水質形成過程の解明、更に両湖で衰退した水生生物の再生のほか、気候変動による水資源への影響調査、VOC由来のオキシダント発生リスクの調査、食中毒や残留農薬試験法の改良といった課題に取り組んでいます。

また、コロナ禍で少なかった施設見学の依頼や環境学習への参加も社会活動の回復とともに次第に増えてきており、当所主催の夏休み親子実験教室を再開するなど、環境教育・環境学習の機会を増やし、以前のように大勢の方々に参加いただけることを心から願うところです。

本年報は、令和5年度に当研究所が実施した試験検査、調査研究業務等を取りまとめたものです。関係各位の御協力に感謝いたしますとともに、御一読いただき、忌憚のない御意見をいただければ幸いです。

今後とも、県民の方々のニーズを的確に把握し、常に前向きに課題に取り組み、使命に応えられる衛生環境研究所及び原子力環境センターとなるよう、一層努力していきたいと考えておりますので、御指導、御協力をよろしくお願いいたします。

令和6年12月

鳥取県衛生環境研究所

所長 池山 恒平